

編集後記

- ◇ 年4回の季刊誌であるが故のタイムラグは避けられないが、本誌が届く頃には桜前線はどこまで北上しているであろうか。今年の冬は全国的に特異的なほどの大雪で、積雪量の観測記録を更新した地域も多いと聞く。筆者の住む小平市は武蔵野台地の西端に位置し、降雪を免れてはいるが3月も間近いのに冷え込みは厳しく、陽春の季節が待ち遠しい。
- ◇ 本誌163号の「産地・業界情報」では、ジャガイモとサツマイモの取り組みを紹介している。長崎県の壱岐島では、ジャガイモの「ながさき黄金」の産地育成とブランディングに成功しつつある。この品種は良食味品で知られる「インカのめざめ」を4倍体化し、シスト抵抗性を付与することに成功したもの。全国的な知名度の向上が望まれるところである。
- ◇ サツマイモでは、茨城県の行方市で開催された「焼き芋サミット」のレポートを収録した。昨年11月に市とJA、生産者などで「行方市さつまいも課」というバーチャル組織を立ち上げ、活動の一環として本年1月にサミットを開催している。焼き芋に取り組む方々に焦点を絞った「焼き芋塾」も併せて実施しており、今後のさらなる展開に期待したい。
- ◇ 焼き芋サミットには、全国から思い入れのある方々が多数、参加されていた。イベント後の交流会は一期一会の出会いに恵まれる絶好の機会であり、オンラインでは実現できない重要な機能であることを痛感した次第である。振興会としても、このような全国各地のイベント情報を、多くの方と共有できるよう努めて参りたい。
- ◇ 寒さはまだ厳しいとはいえ、日差しの強さに春が間近いのを感じる。菜園では伝統野菜の「のらぼう菜」の収穫後に畝を立て、ジャガイモの植付準備を進めている。数種類の種芋は、一ヶ月ほど前にホームセンターで購入。単価が高騰していることを反映してか、1個ずつバラ売りされている品種もあり驚いた。桜の開花とシンクロして萌芽できるよう、準備を進めたい。

いも類振興情報 第163号
2025(令和7)年4月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会
〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225
E-mail: jrta@imoshin.or.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社